

平成 20 年 9 月 9 日
社団法人日本物流団体連合会

「中学生の職場体験」受入れがいよいよスタート

当連合会は、物流業界の社会的認知度向上に向けた取組みの一環として「中学生の職場体験」の受入れを進めていますが、このほど、会員企業である日本通運株式会社東京コンテナ支店（諏訪哲郎支店長）の隅田川コンテナ事業所（中村文彦所長）において、地元の中学 2 年生（1 名）の職場体験の受入れを実施しました。

受入れ期間は、夏休み後半の 5 日間で、職場体験を行ったのは東京都荒川区立南千住第二中学校（担当 進路指導主任 須賀英夫先生）の 2 年生、村山大樹君。受入時間（業務時間）は午前 8 時半から午後 3 時まで。

仕事の内容は、判取り伝票の消し込み作業、オーダー入力など主にパソコンを使った作業。村山君からは当初、「現場の作業をしたい」との要望がありましたが、危険防止を最優先に考えた結果、事務作業が中心となりました。（現場の案内は実施）。受入れ先の中村所長は「当社のユニフォームを着て、朝礼にも毎日参加していただいた。始業は毎朝 8 時半だが、7 時半には既に出社しており、非常にまじめな勤務態度に感心した。若いだけあってパソコンの入力作業の飲み込みも早く、作業が速いことに驚かされた」との印象を述べていました。

体験最終日に本人及び中学校側の派遣責任者の須賀英夫先生により感想を聞く機会があり、村山君本人にインタビューしたところ、「もともと鉄道貨物が好きで、鉄道コンテナを見て育ったので、ぜひ来たかった」と、今回の職場体験の事業所が希望通りだったとのことでした。また、「トラックなどを間近で見るのが初めてで、説明を聞いて荷物の流れや中身がわかった」、「知らない仕事がたくさんあって、凄いなあと思った」、「大雨でコンテナ列車が運休したときはみなさんがバタバタしていて、普段と顔色が違っていた」、「家に帰って毎日、両親にどんな仕事をしたかを話している」、「同級生の仲間には、鉄道貨物輸送という仕事がある意味を伝えたい」、「仕事が楽しく、まだまだやりたかった」と、非常に有意義な職場体験だったことをうかがわせる感想が語られております。

また、須賀英夫先生のお話によると、今年は 90 数名の生徒（2 年生）に職場体験を実施予定だが、物流事業者は今回が初めてとのことでした。また、受入れ先企業への要望については「1 日 7 時間の経験と、5 日間受け入れていただきたいとの 2 点」であり、当連合会が行なっている「受入れの紹介」については「受入れ先の確保が難しく、団体がバックアップしてくれると本当に助かる」とのことでした。

職場体験を行う意義については①礼儀が正しくなる②親の心が分かってくる③仕事の大変さが分かってくるの3点を上げられました。中学校では今後、手書きの冊子を全員が作ったり発表会を行ったりした後、事業内容・体験内容・楽しかったこと・勉強になったことなどをまとめた冊子を作って今後に生かす予定となっています。

なお、今回、職場体験を受入れた日本通運株式会社は、CSR（企業の社会的責任）を担当する環境・社会貢献部（牛込達彦部長）が窓口となって、国が推進するキャリア教育を通じて社会貢献の一分野である次世代の人材育成に寄与することを目的に、受入れを後押ししてゆくこととなっています。

当連合会としても、政策・広報委員会に設置した「職場体験推進ワーキンググループ」を中心に、引き続き会員企業・団体に受入れを積極的に働きかけていくとともに、受入れの際のサポートなどを行なっていく予定です。

社団法人日本物流団体連合会
東京都千代田区霞が関3-3-3全日通霞ヶ関ビル
TEL; 03-3593-0139 FAX:03-3593-0138
政策・広報委員会事務局 担当：西城

*写真は次ページをご覧ください。



事業所職員と一緒に仕事をする村山君



新入社員みたいだと喜びながら日通のユニフォームを着てインタビューに答える村山君



熱心に職場体験について説明をする
須賀英夫先生



隅田川コンテナ事業所のホーム現場作業